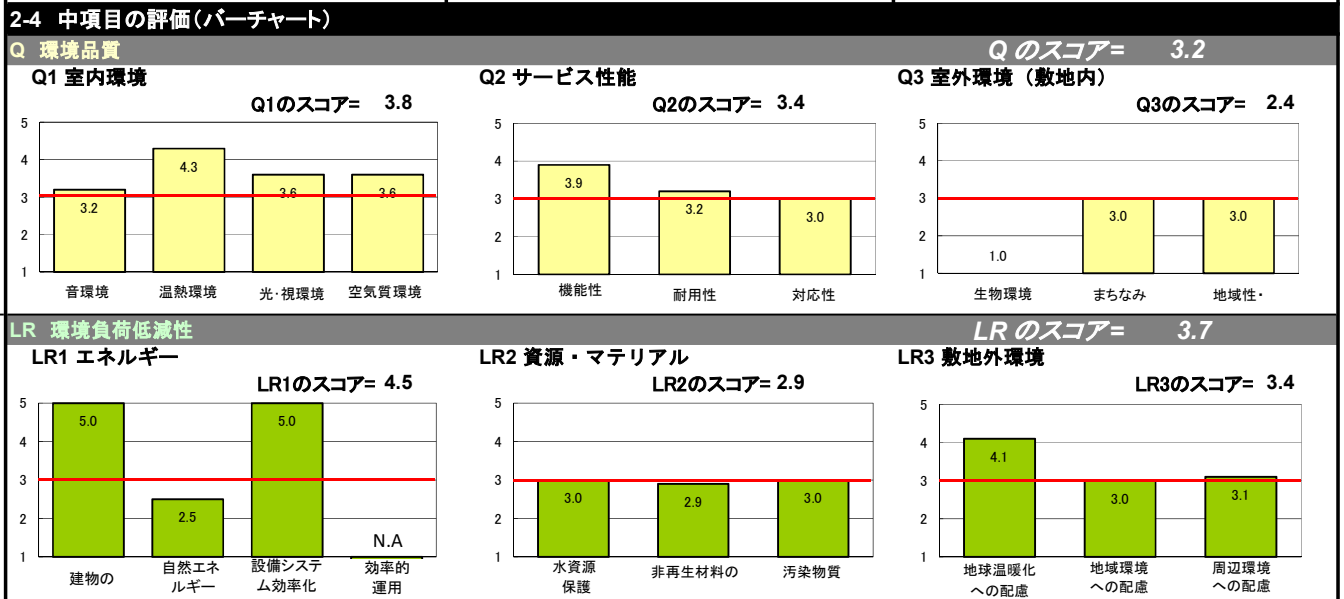
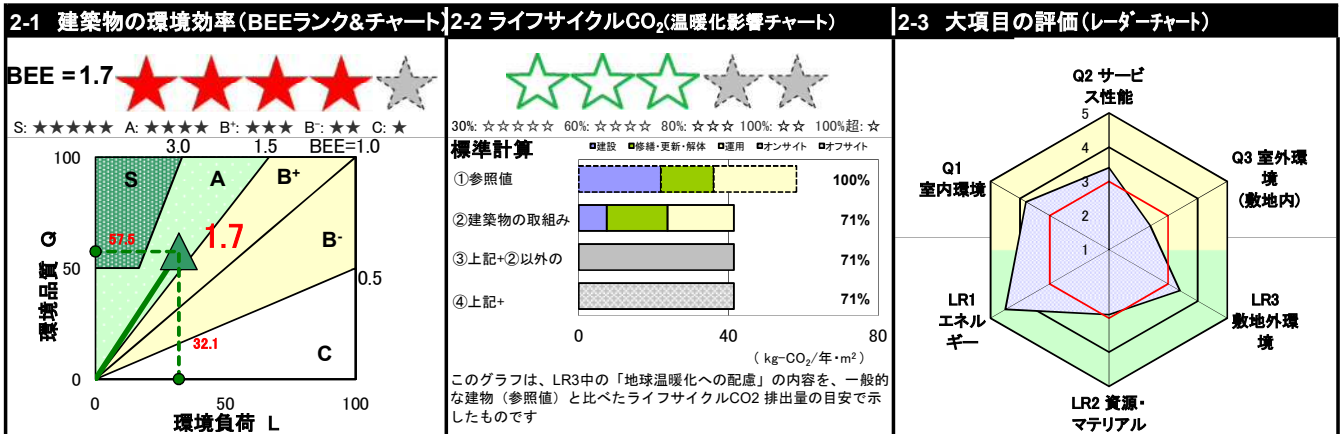


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14075

建築物名称	インプレスト生田
建築主	双日新都市開発株式会社 代表取締役社長 烏山 亮二 株式会社一成開発設計 代表取締役 西田 義一
建築物の所在地	川崎市多摩区三田4丁目9番地6
設計者氏名、建築士事務所名	須川 光人 株式会社三輪設計東京本社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	7,155.88m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了年月	平成28年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

1-1 建物概要		1-2 外観		14075
建物名称	インプレスト生田	階数	地上6F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市多摩区三田4丁目9番地6	構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	255 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年10月 竣工	評価の実施日	2015年1月20日	
敷地面積	2,908 m ²	作成者	株式会社 三輪設計	
建築面積	1,634 m ²	確認日	—	
延床面積	7,156 m ²	確認者	—	



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

インプレスト生田

14075

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	敷地、植栽条件に応じた植栽計画		
2 まちなみ・景観への配慮	周辺の公園や他の施設内の豊かな緑地とのバランスに配慮		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	適切な緑化による敷地内温熱環境に配慮	2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	アマステータにより風向等を把握、高木植栽により日陰を創出等	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	品確法等等級4相当		
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備	カーテン+庇(バルコニー)にて屋光制御		
3.2 3.2.2 屋光制御		5.8/6.4	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	敷地、植栽条件に応じた植栽計画		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	適切な緑化による敷地内温熱環境に配慮	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法等等級4相当		
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型給湯器の採用		
4 効率的運用		4.5/5.0	4.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	内装が乾式工法で分別が容易、PS・天井内配管により設備との錯綜を回避		
3 フロン・ハロンの回避		2.7/4.6	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	アマステータにより風向等を把握、高木植栽により日陰を創出等	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3相当、床:塩ビシート(20年)、壁・天井:ビニルクロス貼り(20年) 給水:塩ビライニング鋼管(B)、排水:排水用塩ビライニング鋼管(B)、Eは不使用	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	内装が乾式工法で分別が容易、PS・天井内配管により設備との錯綜を回避	2.3/3.9	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な駐車・駐輪施設を設置、代替交通手段の利用	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	敷地、植栽条件に応じた植栽計画		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	適切な緑化による敷地内温熱環境に配慮	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法等等級4相当		
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型給湯器の採用		
4 効率的運用		4.5/5.0	4.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	アマステータにより風向等を把握、高木植栽により日陰を創出等	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.4	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	品確法等等級4相当		
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型給湯器の採用		
4 効率的運用		4.5/5.0	4.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEF-川崎2011年版						欄に数値またはコメントを記入				14075
インプレスト生活										
スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40			3.8
1 音環境						3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策								3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能					開口部遮音性能:T-2	3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能								3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	0.20	
1.3 吸音										
2 温熱環境						2.2	0.35	5.0	1.00	4.3
2.1 室温制御						2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能				W	品確法等級4相当	1.0	0.38	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.5	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 昼光利用						4.2	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					共用部:4.06%、住居部:9.58%	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口								1.0	0.30	
3 昼光利用設備				W		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア										
2 昼光制御				W	カーテン・庇(バルコニー)にて昼光制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策										
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					共用部はタイマーにより自動制御	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建材の採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能								3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性									
2	高度情報通信設備対応									
3	バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観									
2	リフレッシュスペース									
3	内装計画									
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計									
2	維持管理用機能の確保									
3	衛生管理業務									
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1	耐震性									
2	免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		R							
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R							
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R							
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R							
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R							
6	主要設備機器の更新必要間隔		R							
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備									
2	給排水・衛生設備									
3	電気設備									
4	機械・配管支持方法									
5	通信・情報設備									
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり									
2	空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性									
2	給排水管の更新性									
3	電気配線の更新性									
4	通信配線の更新性									
5	設備機器の更新性									
6	バックアップスペース									
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出				G	W		H			
2 まちなみ・景観への配慮				G						
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H			

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.5
1 建物の熱負荷抑制	W		H	品確法等級4相当	5.0	0.40	-	5.0
2 自然エネルギー利用					2.5	0.20	-	2.5
2.1 自然エネルギーの直接利用	W		H		2.0	0.50	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W		H		3.0	0.50	-	
3 設備システムの高効率化	W		H	潜熱回収型給湯器の採用	5.0	0.40	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)					5.0			
集合住宅の評価					5.0			
4 効率的運用					-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H		-	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H		-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護	W	R			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63	-	2.9
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		内装が乾式工法で分別が容易、PS・天井内配管により設備との絡線を回避	5.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	W			LOGO2の排出率を参照値より抑制している	4.1	0.33	-	4.1
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害チェックリストの過半を満たす、広告物照明がない	4.0	0.70	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	

14075

インプレスト生田

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。